

これから世界に羽ばたく研究者の方々に贈る必読の書

科学と芸術

自然と人間の調和

酒井邦嘉 [監修] 日本科学協会 [編]

第Ⅰ部 創造と想像

- 第1章 芸術と科学の邂逅
千住 博 (日本画家) × 酒井 邦嘉 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
- 第2章 ベートーヴェンはなぜすごいのか
曾我 大介 (指揮者/作曲家)
- 第3章 マンダラ: 視覚化された最高真理——そして芸術への傾斜——
正木 晃 (宗教学者)
- 第4章 理学・工学・アート・デザインとウェルビーイング
前野 隆司 (慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授)

第Ⅱ部 人と生物

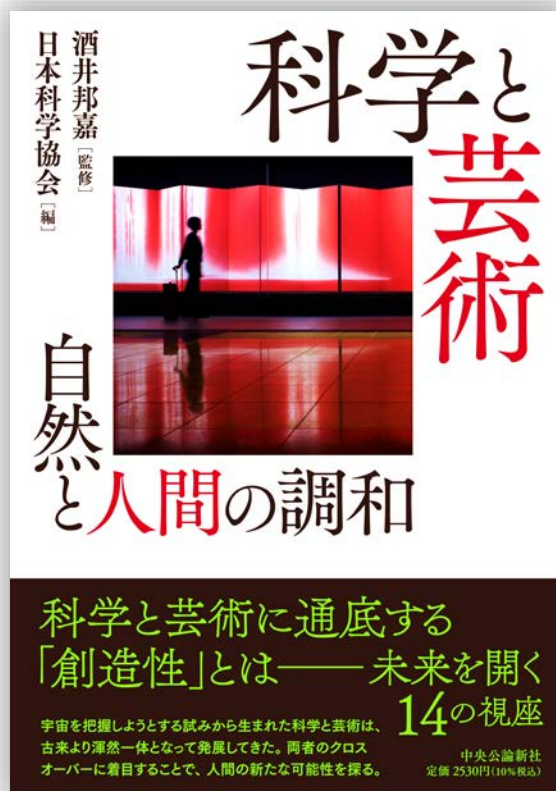
- 第5章 「温故知新」の普遍性～能と論語とbeyond AI～
安田 登 (能楽師)
- 第6章 歩行について: 境界例からのライブ・アート (生の芸術) 考
外山 紀久子 (埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授)
- 第7章 科学論の中の美と芸術——近代日本の見た「実在」
岡本 拓司 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
- 第8章 科学と芸術をめぐる近代のパラドクス
——ゲート自然科学における形態学と菌類生物の<ポリネーション>
前田 富士男 (慶應義塾大学名誉教授)
- 第9章 生命を主体とする哲学——南方熊楠とユクスキュル
松居 竜五 (龍谷大学国際学部国際文化学教授)
- 第10章 四次元の芸術——南方熊楠と鈴木大拙からはじまる
安藤 礼二 (多摩美術大学図書館長/同大学美術学部教授)

第Ⅲ部 都市と自然

- 第11章 都市・まち・建築の熱環境の可視化
梅干野 晃 (東京工業大学名誉教授/放送大学客員教授)
- 第12章 科学と芸術をつなぐ多孔性モデル——生態学的都市論から見た世界
田中 純 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
- 第13章 庭園芸術が問う技術時代の総合芸術
後藤 文子 (慶應義塾大学文学部人文社会科学科教授)
- 第14章 人間と自然の関係の文化「庭」の今
岡田 憲久 (作庭家)

詳しくはWebサイトをご覧ください

<https://www.js.or.jp/ikusei/rinsetsu/arts/book.html>



科学と芸術に通底する
「創造性」とは——未来を開く
14の視座

宇宙を把握しようとする試みから生まれた科学と芸術は、
古来より渾然一体となって発展してきた。両者のクロス
オーバーに着目することで、人間の新たな可能性を探る。

中央公論新社
定価 2530円 (10%税込)



中央公論新社

A5判 336ページ 定価 (本体2,300円+税)

14の視座がとらえた創造的な未来に重要な「科学と芸術」のクロスオーバーとは？
日本科学協会 科学隣接領域研究会が人間の新たな可能性を探る1冊がここに

2022年2月21日 (月) 発売

【お問合わせ先】公益財団法人 日本科学協会 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5F TEL : 03-6229-5360 FAX : 03-6229-5369

日本科学協会 科学隣接領域研究会が贈る

科学隣接三部作、ここに完結！



科学と宗教

対立と融和のゆくえ

金子務 [監修] 日本科学協会 [編]

新たな局面を迎える「科学と宗教」
歴史を辿り、未来を展望するための11の視座



科学と倫理

AI時代に問われる探求と責任

金子務・酒井邦嘉 [監修] 日本科学協会 [編]

科学を支えるための倫理とは？
13の視座が先の見えない問題にどう向き合うのか



科学と芸術

自然と人間の調和

酒井邦嘉 [監修] 日本科学協会 [編]

「科学と芸術」のクロスオーバーとは？
未来に向けて人間の新たな可能性を探る14の視座